



志津子

鱚雲母は小声で一人言
農道の隅をゆっくり穴まどい
たくあんを音たて食す秋の暮

富子

○栗飯や口に出さねど仲直り
○蛇穴へ数多の悲しみも一緒に
鱚雲どれだけ待っても朗報なく

千代

○ドリブルでぐるぐる校門いわし雲
「修験のみち」は墳墓へ秋の蛇
百歳の母ゐる句友秋うらら

泰子

○秋うらら農機の高き喚き声
秋風やさらさらさらと光る野辺
鈴虫や銀貨三枚ゼリー付き

農子

鱚雲大魚飛び出し空泳ぐ
秋蛇の門扉の上を縄のごと
秋夕焼紅く染まりて立ち話

初江

○水筒のキャップに磁石いわし雲
いわし雲 Dr.コトー診療所
入場料は鱚蛇穴に入る

富江

○今朝の径ひとつの栗が愛しくて
○微笑みてフオークダンスや鱚雲
秋の蛇老の歩中にゆんるりと

弘

○鱚雲なんて涙が湧くがじゃろ
鱚雲思い出すのも嫌なひと
「山際」の未練たらたら蛇穴に

丞子

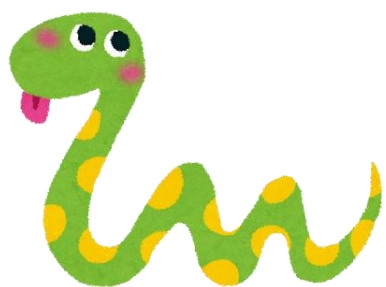
銀色に夕日かがやく鱚雲
穴まどい茶の木の裏に身を沈め
コンサート跳ねてお街へ秋の暮

郁子

○蛇の皮財布に入れてケセラセラ
○主なき庭に真紅の冬薔薇
日矢射して魚鱚きらめく鱚雲

酔花

○猫の顔うずめて見えぬ寒さかな
指入れて鱚の頭切りはなす
日だまりに集まる鳩の背に光



えり

○風の音天から降れど穴惑ひ
欲の皮浮ぶあいなし鱚雲
鱚雲堰でたまるやどんぶらこ

万貴

○喪失はいつも不意打ち鱚雲
選択肢まだ三つある蛇の穴
あの人はもう居ないんだいわし雲

味元 昭次 作品

くねくねと老後の来たり穴惑
漁村には漁夫の大声鱚雲
穴惑後出し大臣辞任して

★次回市民句会

【開催日時】

令和四年十一月二十三日(水)
午後一時十五分〜午後四時(予定)

【場所】

オーテピア4階 研修室
どなたでも自由にご参加いただけます

